

下野市行政改革推進委員会 議事録

- ・ 審議会等名 平成30年度 第3回下野市行政改革推進委員会
- ・ 日 時 平成30年11月22日（金）午後1時30分から4時30分
- ・ 場 所 下野市役所 2階 203会議室
- ・ 出席委員 杉原弘修会長、伊澤和子委員、稲田智秀委員、手塚英男委員、宮崎真人委員、小島恒夫委員
- ・ 欠席委員 青柳庄一委員、大越歌子委員、百武亘委員
- ・ 市側出席者 (産業振興部) 瀧澤産業振興部長、濱野商工観光課長、大口主幹、近藤主幹
(教育委員会) 坪山教育次長、田澤課長補佐、西松課長補佐、稲葉主幹、手塚生涯学習文化課長、坂巻主幹
(総合政策部) 長総合政策部長、谷田貝総合政策課長、荻原課長補佐、浅香課長補佐
(事務局) 長総合政策部長、谷田貝総合政策課長、荻原課長補佐、猪瀬副主幹、菊地主事
- ・ 公開・非公開の別 (公開 ・ 一部公開 ・ 非公開)
- ・ 傍聴者 なし
- ・ 報道機関 なし
- ・ 議事録(概要) 作成年月日 平成31年 1月31日

○次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事
 - (1) 議事録署名人の指名
 - (2) 行政評価市民評価事業ヒアリング
 - ①天平の丘公園周辺施設整備事業（産業振興部商工観光課）
 - ②児童生徒英語教育推進事業（教育委員会学校教育課）
 - ③文化振興事業（教育委員会生涯学習文化課）
 - ④しもつけ・未来・プロモーション事業（総合政策部総合政策課）
 - ⑤公共施設マネジメント推進事業（総合政策部総合政策課）
 - (3) 全体協議
 - (4) その他
- 4 閉 会

○開会

(事務局) 平成30年度第3回下野市行政改革推進委員会を開会します。

○あいさつ

(杉原会長) 本日は3時間という長時間の委員会となります。よろしくお願いいたします。

○議事

(1) 議事録署名人の指名

(杉原会長) 今回の議事録署名委員を指名させていただきます。手塚委員、小島委員にお願いいたします。

(2) 行政評価市民評価事業ヒアリング

(杉原会長) ヒアリングに入る前に、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局) 本日のヒアリングの順番については、天平の丘公園周辺施設整備事業、児童生徒英語教育推進事業、文化振興事業、しもつけ・未来・プロモーション事業、公共施設マネジメント推進事業の順に30分ずつヒアリングを実施いたします。ヒアリング後は、各委員において、事業ごとに市民評価シートを作成していただきますが、本日の評価シートについては、来週の11月30日金曜日までに、返信用封筒にてご提出くださいますようお願いいたします。なお、5事業すべてのヒアリングの終了後、20分程度全体協議のお時間を設けておりますので、宜しくお願いいたします。以上です。

①天平の丘公園周辺施設整備事業

[産業振興部出席者自己紹介]

[ヒアリング資料を基に、商工観光課長から説明]

(杉原会長) ありがとうございます。委員の皆様からご意見ございますか。

(小島委員) 都市計画課に公園整備グループがあり、公園の整備や管理を行っているはずですが、天平の丘公園はなぜ商工観光課が担当しているのでしょうか。

(商工観光課長) おっしゃるとおり、一般的には都市計画課で公園管理を行うこととなっております。天平の丘公園も都市公園という位置付けではありますが、天平の花まつりや芋煮会等の観光地として重要な公園でありますので、商工観光課が担当しております。なお、歴史的風致向上計画にも含まれておりますので、都市計画課と文化財課と協力しまして整備をしまいたいと思っております。

(小島委員) 平成29年度から樹木の間伐等を行っており、その後、基本計画を策定する順序となっております。しかし、順序としては逆ではないでしょうか。どのようなお考えなのかお伺いします。

(商工観光課主幹) 間伐につきましては、5年間を目安に、平成26年度から計画的に進めてきました。今年度が最終年度となっておりますが、まだ鬱蒼としている所があることや安全面を考慮しまして、今後も引き続き間伐を行っていく必要があると思います。基本構想、基本計画については、間伐を継続していきながら、いかに人を呼び込める公園にするのかを考慮し、構想を策定しております。それに加えて、ヤマザクラ等の資源の活用や平地林での光の差し込み具合などを検討していき、再整備の取組みとして行っていきたいと思っております。

(小島委員) 平地林の伐採については、積極的に行っていただきたいと思っております。

委員会等の立ち上げや市民の意見を聞く機会を設け、利用者の声を聞きながら進めていただきたいと思います。

(杉原会長) 観光の目玉となる公園を整備していくわけですが、基本計画に観光的要素をどのように盛り込むのかということが重要なポイントだと思います。しかし、予算が少ないのではないかと思います。平成32年度では予算の内訳はどうなっているのですか。

(商工観光課長) ヒアリングシート作成時での平成32年度事業費額では、間伐に453万6千円、基本計画策定に2百万円としておりましたが、今後、事業費の増額を検討してまいります。また、平成31年度に歴史的風致向上計画の中に位置付けられたことから、事業採択された場合、平成32年度以降は、国の補助を受けて実施していくことができます。

(杉原会長) ぜひ、観光の目玉となるよう進めてください。

(手塚委員) 配付されたマップを見ますと、図案の関係もあると思いますが、きれいですっきりとした公園に見えます。しかし、もともとはスギの木が多い公園であり、間伐を行わなかったため鬱蒼とした林になっていました。少しずつ間伐を行ってきているということで、現状は分かりませんが、図面の南側はとても鬱蒼とした林であったと認識しております。明日香川があると思いますが、明日香川をつくった目的のひとつとして、ビオトープが挙げられます。しかし、ビオトープにしては日が全然差さないため、水生昆虫が全然育ちませんでした。また、マップ内に水生植物園があると思います。最近話題に上がっている、鯉を池に入れないようにするという理由は、鯉が水生昆虫を食べつくしてしまうことがあるからです。見た目がきれいな鯉がおりますので多く放してしまうことがあります。ほどほどにさせていただきようお願いたします。また、明日香川に日が当たるように伐採すると良いのではないかと思います。以前、明日香川でホタルを飼ったら良いのではないかというお話がありました。ホタルを飼うのは良いのですが、ホタルの餌になる生物が川にいない、日が当たらないから水草が育たないというようなことがありました。そのため、川際では飼うことができず、現在、明日香川は水路としての機能しかないと思います。伐採を行う際には、明日香川に日が当たるようにして欲しいということ、もう一つは、一時期オオタカの営巣がこのあたりにあったと記憶しておりますので、現在はあるか分かりませんが、そういうことも考えながら伐採していただきたいと思います。三王山公園の樹林は広葉樹林ばかりですが、それに似た明るい林にさせていただきたいです。その方が、人も集まってくると思います。可能な限り思いきり伐採していただいて、日差しが入る明るい林にして欲しいと思います。

(商工観光課長) 手塚委員からご指摘のあったとおり、伐採を始めた経緯としましては、散策するにはあまりにも見通しが悪く、安全面に不安もあることから始めたところでございます。明日香川についても、数年前にホタルを育成しようとしたのですが、手塚委員がおっしゃられたこともあり、定着はしておりません。

オオタカの営巣など、自然とのバランスを考慮して、散策しやすい林にしていきたいと思います。

(稲田委員) 私も小金井に赴任してから、周辺に何があるのか調べていましたところ、天平の丘公園が出てきました。実際に車で行って見ますと、暗いという印象を受けました。間伐も重要だと思いますが、新しくオープンした古民家カフェのように店舗や施設を誘致するなど、集客の方法を考えながら進めていただきたいと思います。もう一つですが、イベント以外で、天平の丘公園への来場者数はカウントされているのでしょうか。

(産業振興部長) 天平の花祭りや芋煮会などでは来場者数のカウントを行っていますが、通常の時期での来場者については統計を取っておりません。

(商工観光課長) 天平の丘公園にオープンしました古民家カフェでは、天平の花祭り等のイベント時期以外の月平均が約2千人となっております。通年で人々に来ていただくことに一定の効果はありますが、それに基本構想を加えまして、より多くの人に来ていただくよう目指していきたいと思います。

(小島委員) 間伐の話ですが、植栽等も行っていくのかと思っていましたが、枯れ木やちょっとした間伐を行うくらいとのことでした、予算の約450万円ではほとんど何もできず、効果があることはできないのではないかと思います。もう少し予算を確保しまして、遊具設置等を行う際に、植栽計画を考え、人を呼びこめるオープンな空間やビオトープの改善によって子どもの学習に資するような空間をつくって欲しいと思います。現状の予算額では掃除程度しかできないのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

(商工観光課主幹) 今年度策定しております基本計画の中には、伐採だけではなく人を呼び込むために植栽も行っていき、現状はスギとヒノキ、ヤマザクラとなっておりますが、四季折々の花や木を楽しめるように配置していくことを考えております。その木々を育てていくためには明るさが必要であり、現状約450万円で行っている伐採では足りませんので、平成31、32年度と計画を進めていく中で、予算要求をしていく予定でございます。遊具につきましては、遊具設置等のための宝くじ助成金がありましたので、要求していくこととし、来年度使うことができれば予算はさらに増える予定であります。

(小島委員) もう一つ質問ですが、人を呼び込む方法として、花が挙げられます。管理は大変だと思いますが、昆虫類を呼び寄せるだけでなく人を呼び込む方法として、花はキーポイントになると思いますのでご参考にさせていただきたいです。

(伊澤委員) 花まつりと芋煮会だけでなく、一年を通して目玉になるものを出していただけると良いと思います。

(商工観光課主幹) 公園の整備に関しましては、まず、歴史的風致向上計画の中で国や県から補助を受けつつ、ハード面の部分に関して整備していきます。その後、公園を活用したイベント等を計画し、一年を通して人が訪れる公園にしていきたいと考えております。

(杉原会長) 一つお尋ねしますが、広報関係の部署とはどのように連携されるのですか。

- (商工観光課主幹) 総合政策課の情報広報グループにて広報紙等を作成しております。イベント等がある際には事前に周知を行うよう依頼しております。
- (杉原会長) 密接に連携して取り組んでいってもらえれば良いと思います。参考事例になりますが、ある市では、学生が市の呼びかけに応じてスタンプラリーに参加しました。学生は行ってきた証拠が欲しいようで、集まるようです。何かスタンプラリーをする計画はありますか。なければ施設をスタンプ化していくとよろしいと思います。
- (商工観光課主幹) サクラノチカイという市のPR動画がありまして、聖地巡礼というかたちでスタンプラリーをする企画を観光協会で行っております。
- (杉原会長) 効果はあるのですか。
- (商工観光課長) 現在SNSなどを通して、全国、全世界に発信できる体制をとっております。
- (杉原会長) 少しでも効果があることが分かりましたら、そこを突破口にして取り組んでいていただけたらと思います。他にございますか。
- (手塚委員) 天平の丘公園は、桜あつての公園だと思います。注意喚起になりますが、クビアカツヤカミキリという桜の木の中に卵を産み付ける3cmくらいの昆虫がいます。現在増えているようで、平成28年に足利市、平成29年に佐野市で発見されており、県南部で広がっています。退治するためには桜の木を切らなければならないようです。天平の丘公園には桜の木が多いので、見つけたらすぐに退治するように、注意して管理していただきたいと思います。
- (杉原会長) そろそろお時間ですがよろしいでしょうか。それでは天平の丘公園周辺施設整備事業のヒアリングを終わります。

②児童生徒英語教育推進事業

[教育委員会出席者自己紹介]

[ヒアリング資料を基に、学校教育課課長補佐から説明]

- (杉原会長) ありがとうございます。何かご意見ございますか。昨日、英語教育に留学生を活用するというニュースを見ました。小中学生向け英語教育に大学生3名をボランティアとしたとありましたが、その中に外国語を母国語とされる方はいらっしゃいましたか。
- (学校教育課主幹) ボランティアの学生3名は英語教員を目指している日本人の学生であります。留学生との交流については、プレゼンテーション大会で発表するにあたり、目的意識や必然性、場面性が求められ、聞き手として留学生の存在が重要になると思いますので、今後取り組んでいきたいと考えております。
- (杉原会長) 日本人でも優秀な方がたくさんいると思いますが、英語を母国語としている留学生だと生徒に与える刺激も異なると思います。資料を見ますとボランティアに対する予算が入っていないようですので、英語教育に関する活動補助を考えてみると良いかもしれないです。ボランティアとはいえ何か報酬があ

る方が、学生や留学生がより多く参加してくれるかもしれません。

(小島委員) 平成31年度ではALTとJTEを合わせて11名となっておりますが、小中学校との数と合っているのですか。

(学校教育課主幹) いいえ、数は合っておりません。現在、中学校が4校、小学校が12校ありまして、来年度は小学校が11校になります。1名のALTが複数校を掛け持ちしていますが、石橋中学校については規模が大きいのでALTが1名常駐となっております。

(小島委員) 資料のその他で、国分寺西小学校と細谷小学校についてはALTの国際理解教育イベント、その他の学校については教育イベントとなっておりますが、何か違いはありますか。

(学校教育課主幹) ここ数年、7名のALT全員が国分寺西小学校と細谷小学校に出向き、国際理解教育イベントを実施しております。これは、こちらからお願いしているものではなく、学校側よりALTとの交流活動をしたいとの要望があり、それに応えるかたちで実施しました。現状として、全校児童が参加できる企画は小規模校のみが実施できている状況であります。規模の大きい学校には学年ごとにALTを配置することも検討するよう呼びかけておりますが、学校行事等との調整もあることから難しい現状となっております。

(小島委員) この質問をした理由としまして、国分寺西小学校は合併するので良いのですが、細谷小学校を小規模特認校として残したことにあります。一方では学校合併を行っており、もう一方では小規模特認校を残すということはおかしいと思います。以前から坪山次長とお話させていただいていますが、下野市の教育戦略として疑問を抱きます。合併する学校と小規模特認校とする学校があることで、先程のALTのような差が生まれてしまうと思います。例えば細谷小学校を石橋小学校と合併するなどの対策を取ったほうが良いと思います。地元の方の意向もあると伺っていますが、子どもたちのことを第一に考えて取り組んでいただきたいです。

(教育次長) 国分寺西小学校と細谷小学校については、平成28年に学校適正配置推進協議会を設立し、今後の在り方について検証を始めました。国分寺西小学校では、子どもが増えていかない状況を考慮しまして、平成31年度に再編することになりました。細谷小学校についても、3年後にもう一度検討することになり、平成31年度に再検証を行う予定であります。

(小島委員) 私としましては、子どもが多くの人と関わることが大事だと思いますので、ぜひ合併を進めていただきたいと思っております。

(宮崎委員) 小中一貫校になる学校もありますが、そのことについてあまり情報が伝わってこないことが挙げられます。また、本当に良い学校をつくってくださるならば良いのですが、関係者の意見が届いているのかが分からず不安に思っています。一方で小中一貫校を進め、一方では合併しないといったことでは大丈夫なのかと感じてしまいますので、不安のない進め方をしていただきたいと思っております。

- (稲田委員) 小学校でも英語が教科として入ってくると思いますが、中学校のように英語専任の教師がいるわけではなく、担任の先生が教えるようになるということによろしいですか。
- (学校教育課主幹) 英語の免許を持っている教師は非常に少ないため、そのようになると思います。
- (稲田委員) その場合、先生方の意識についても様々だと思います。その中で、ゆうがおカフェなど自主研修を行っているわけですが、参加者30名は多いのでしょうか。また、先生の意識について聞かせてください。
- (学校教育課主幹) 当初は、数名来ていただければ実施していく価値はあると思っていましたので、30名は決して少なくないと思っています。学校別や年齢別で見ると差はありますが、少しずつ新たに参加して下さる方もいますので、少なくとも30名はキープしていきたいと思っております。
- (稲田委員) 先生方の意識はいかがですか。
- (学校教育課主幹) 数年前から英語が教科化されるのではないかとされており、ついに教科化されました。先生方の意識は、年配の方ほど消極的であるように感じます。最近では、採用試験の際にTOEICなどの点数によって一部1次試験の免除等がありますので、若手の教師は抵抗が少ないと思います。
- (杉原会長) 今のお話と関連しまして、今まで英語を担当していなかった方が英語を教えるのは非常にプレッシャーになります。教育委員会で、生徒から先生の授業を評価する仕組みをつくることはできますか。
- (学校教育課主幹) 現段階では、教えることで精一杯で評価までは難しいと思います。しかし、教育をレベルアップしていくことを考えますと、必要ではないかと思えます。教育委員会として取り組むことはできると思いますが、小学校の先生に求められていることは英語のスキルだけではないため評価の仕方は難しいと思います。
- (伊澤委員) 薬師寺地区では小中一貫も進めながら英語の教科化も進めていくことになるため、教師への負担は非常に大きいと思いますが、それに対する気配りなどはありますか。
- (学校教育課課長補佐) 市としましては、小中一貫の仕組みを使いながら英語教育を進めていけたらと思っております。小中一貫になりますと中学校の英語教師がおりますので、小学校の先生に対して、英語教師と一緒に授業の計画や組立てを行う機会を設けていければと考えております。ゆうがおカフェもその一環として取り組んでおります。
- (学校教育課主幹) 小中一貫校という面では、南河内地区で小学校3校と中学校1校が、2か月に1度小中一貫の日を設け、先生方が集まり、どのように小学校と中学校をつないでいくか話し合われています。その中に英語教育についても部会を設定していただき、教科書の指導方法についても話し合っております。負担は少なからずあるのですが、急に負担が大きくなることはないと思っております。

(伊澤委員) 授業の他に集まって話し合われるということは非常に大変なことだと思います。

(学校教育課主幹) どの学校地区でも、学校間の話し合いについては少なくとも2か月に1回は行っております。勤務時間内に行うようにしておりますので、負担等はそれほどないのではないかと考えております。

(杉原会長) お時間になりましたので、児童生徒英語教育推進事業については終わりにします。

③文化振興事業

[教育委員会出席者自己紹介]

[ヒアリング資料を基に、生涯学習文化課長から説明]

(杉原会長) 何かご意見ございますか。本事業はソフト事業であり、裁量ありとなっております。裁量には2つあり、規則裁量と自由裁量があります。毎年度の予算はほぼ固定となっておりますが、なぜ裁量があるのに予算がほぼ固定しているのか疑問に思います。

(生涯学習文化課主幹) 裁量については事業全体から判断しております。予算については毎年ほぼ同額となっておりますが、市民芸術文化祭や芸術鑑賞において、何を行うかは独自で考えており、内容については自由であるため、裁量ありとしています。

(手塚委員) しもつけ市民芸術文化祭についてですが、南河内体育センターで行っている市民の作品展において、出展者が年々減少していることはご存知でしょうか。参加費以外に掛かる費用が高いことから出店をやめることを考えているという話を出展者から伺っておりますので、予算が固定であることを考慮すると難しいのかもしれませんが、盛り上げるためには工夫していくことも必要だと思います。

(生涯学習文化課主幹) 市民の作品展については、昨年度と比べて今年度は2団体減ってしまいました。原因は代表者が高齢であり、参加が大変であると伺っております。文化祭については文化団体加盟者以外も出ていただくようにしていますので、広報に力を入れているところであります。様々な場所に募集要項を設置し、作品展自体のチラシも作成しております。作品を飾っているだけではもったいないため、多くの来場者にも来ていただけるよう工夫しているところであります。

(手塚委員) 子どもの夏休みの作品の展示もあったと思いますが、見に来ている方が少ないと思いますので、こちらのPRもお願いします。

(小島委員) 生涯学習として、展示だけでなく参加型のイベントなど、一工夫が必要だと思います。何か取り組む予定などありますか。

(生涯学習文化課主幹) 市民の作品展については、参加費は掛かってしまうのですが、参加される方にワークショップの実施を促しています。今年は押し花とラペリスフラワーの作品作りをしていただき、子どもも含めたくさんの方が参加し

ていただきました。グリムの館で行っている書道や生け花では来場者が少ないため、参加型のイベントなどを行うべきではないかという意見が出ていますので、実行委員会と検討していければと思っております。

(小島委員) テレビで「プレバト!!」という番組がありますが、参考にされると良いと思います。しっかりとした先生を付け、ポイントを分かりやすく解説することが良いのではないかと思います。このままでは衰退していく一方ですのでご検討ください。

(生涯学習文化課長) 文化祭のほかに、生涯学習の一環として公民館講座などがあり、そこで学んだことを公民館まつり等で披露する機会を設けております。

(手塚委員) 事業概要に「伝統文化親子教室」とありますが、いつ、どのようなことをしているのでしょうか。

(生涯学習文化課主幹) 伝統文化親子教室については、お囃子で2団体、華道で2団体、茶道で2団体、和装礼法1団体、お琴1団体、合計8団体が文化庁の補助金を受けて活動しております。年間を通して開催しており、子どもたちに伝統文化を継承しています。

(杉原会長) 以上で終わります。ありがとうございました。

④しもつけ・未来・プロモーション事業

[総合政策部出席者自己紹介]

[ヒアリング資料を基に、総合政策課長から説明]

(杉原会長) 先に確認したいことがあります。この事業は必要性B、緊急性C、効率性Bという低い評価になっておりますが、そのような評価である理由とどのように捉えればよいのかということをお伺いします。

(総合政策課長) 必要性は高い事業であると思っておりますが、内部評価の観点からは評価が低くなっており、実施において見直しが求められている事業となっております。事業の展開としましては、全国的に問題となっていることへの対応であるため、必要な事業だと思っております。

(小島委員) 全国的に地方創生の動きがありますが、どこの自治体も同じようなことをやっているように感じます。全体的に人口は減少しており、東京一極集中の傾向であります。下野市ではアニメーションなどに取り組んでおり、若者を対象とした政策はありますが、中年や高齢の方を対象とした政策がないのではないかと思います。どのようにお考えでしょうか。

(総合政策課長) アニメーションや動画を使うことで特に若者を呼び込むようにしています。それに加えて、市のパンフレット等も使って、医療が充実していることや東京圏への移動がしやすいことをPRしまして、幅広い年代に対応しております。

(小島委員) 下野市の魅力として、東京へ1時間程度で行けることや自治医科大学があること、災害の少ないところが挙げられます。そこをよりPRしていくべきであり、特に自治医科大学と連携していきながら、その良さを発信していくこ

とが大事だと思います。現状では自治医科大学との関係性が薄いと思います
がいかがでしょうか。

(総合政策課長) 「下野市100のコト」というパンフレットを作成しまして、東京など
で配布しております。その中に自治医科大学等医療関係のことも記載して
おります。引き続き、魅力の一つとしまして紹介していきたいと思っております。

(総合政策部長) アニメーションやブランディング動画は子どもが興味を持てば、その親
も興味を持って見ると思います。動画の中には自治医科大学を舞台にすること
や、背景として映していることがありますので、間接的にPRができている
と思います。

(小島委員) 動画等を流すことによって、アクセス数はいかがですか。

(総合政策課課長補佐) シティプロモーションサイト「プチハピしもつけ」にありますシ
モツケンという動画の総再生回数が14万4千回以上となっております。
「プチハピしもつけ」のアクセス回数は平成30年3月時点で7万5千アク
セスとなっております。これらの中で自治医科大学についても取り上げてお
ります。

(小島委員) 年度別のアクセス数はいかがでしょうか。また、来年度はどのくらいの回数
を目標としているのでしょうか。

(総合政策課課長補佐) サイトの立ち上げが昨年度となっております、実績の比較につ
いてはこれからになります。昨年度についてはあまり芳しくなかったため、
比較すると今年度の回数は伸びております。

(稲田委員) 観光協会でも下野市のPRを行っていますが、この事業費の中に、観光協会
への補助金も含まれているのですか。

(総合政策課長) 補助金は含まれておりませんが、観光協会に委託している事業費につ
いては含まれております。

(稲田委員) もう一つ質問ですが、「下野市100のコト」について、市外の人に見てもら
うことが大事だと思いますが、どこに配架や配布をしているのですか。

(総合政策課課長補佐) 添付資料の6ページをご覧ください。東京での移住セミナーの開
催について記載しております、東京でのセミナー実施の際やイベント出展
の際に下野市の魅力を紹介しております。そのようなイベント時にパンフレ
ットコーナーなどがあり、そこに「下野市100のコト」を配架しておく、
持っていかれる方が多数いらっしゃいます。

(総合政策部長) おっしゃるように、市内に配布するものではなく市外の人に見てもら
うものなのですが、下野市の良さを再認識できる内容ともなっておりますので、
ぜひ市内の方にも一読していただきたいと思っております。

(小島委員) 結果として、移住してきた方はいらっしゃるのですか。

(総合政策課課長補佐) 移住者数は集計していませんが、新築住宅補助金や家庭菜園補助
金を使っている方のデータは集計しています。申し訳ありませんが、都市計
画課が担当となるため本日は集計データを持ち合わせておりません。

- (総合政策課長) 平成27年10月から平成28年9月における社会動態の調べによりますと、下野市の転入超過が246人となっております。
- (杉原会長) 平成31年度の予算が約3千3百万円であり、国庫支出金が1千万円、一般財源が約2千3百万円、翌年の平成32年度が約1千8百万と減額されていますが、国庫支出金が減らされたのでしょうか。減額の理由をお伺いします。また、平成29年度から平成30年度についても同様に減額されていますが、なぜでしょうか。
- (総合政策課長) 平成31年度につきましては、アニメの第2弾の制作を予定しており事業費として組み込んでいましたが、再検討しまして制作を見送ることとしました。そのため、アニメ制作費を除きますと事業費は約2千万円となります。平成29年度につきましては、シティプロモーション動画とご当地アニメーションを制作しましたので、平成30年度と比較しますと、その分事業費は多くなっております。国庫支出金の内容としては地方創生推進交付金であり、アニメーション活用においては、平成29年度から平成31年度までの3年間で対象となっております。
- (杉原会長) 平成32年度は、国庫支出金が無いということですね。
- (総合政策課長) 現段階ではありません。
- (手塚委員) 他事業との連携で、空き家バンクとの連携と記載されていることについてお伺いします。私は行政相談員をしている中で、栃木市の空き家対策について実績が上がっていると聞いたことがあります。アニメーションも良いと思いますが、そういった実績のある市町の方のお話を伺うことも良いと思います。空き家バンクを利用して人に来てもらうことも考えていただきたいです。
- (総合政策課長) 空き家バンクにつきましては今年の8月に開設しており、また、リフォーム補助なども行っておりますので、今後、連携して取り組んでいきたいと思っております。
- (杉原会長) 以上でよろしいでしょうか。それでは終わります。ありがとうございました。

⑤公共施設マネジメント推進事業

[総合政策部出席者自己紹介]

[ヒアリング資料を基に、総合政策課長から説明]

- (杉原会長) ありがとうございます。何かご意見ございますか。
- (小島委員) この事業について、市民はどの程度理解していると思いますか。
- (総合政策課長) 総論としては、施設管理や整備等において必要だとご理解いただけていると思いますが、個別施設について検討していくことになる段階では難しいところがあると思います。例えば、普段利用している施設が統廃合する場合、ご理解いただくことが難しいところもあると思います。
- (小島委員) 文化センターをつかってほしいという話をよく聞きますが、市は維持管理費が掛かるためつくることができないという説明をしており、その結果、市民に納得していただけていないところがあるのではないかと思います。公共施

設を維持管理していくための費用がどの程度掛かるのか説明がないため、市民に納得していただけないのではないかと印象を受けます。管理計画についてもっと分かりやすい説明をすれば、市民の方も納得いただけるのではないかと思います。今後の管理計画の周知についてどのようにお考えですか。

(総合政策課課長補佐) 公共施設マネジメントの一番のポイントとなるのは学校施設になります。下野市での公共施設に占める学校の割合は約6割となっております、大きな割合を占めています。学校の適正配置が完了した後は、利活用することはあっても建て替えることは基本的にはなく、正直に申し上げますと、最終的に除却になった時点で管理計画の目標達成になります。現在は学校の動向について説明しているところであり、実際には管理計画は順調に進んでいるところでもあります。

(総合政策部長) 管理計画を作成するにあたって、議員への説明やパブリックコメント等を実施しておりますが、市民一人ひとりが内容を理解しているとは思いません。施設を統廃合あるいは再編することになったときに、管理計画を改めて周知していきます。その時点にならなければ市民の方々にご理解いただくことは難しいのではないかと思います。

(小島委員) 漫画で分かりやすく問題提起するのがよいのではないかと思います。長野県長野市で「マンガで分かる！長野市公共施設等総合管理計画」があり、東京都武蔵野市で「わたしたちで考える公共施設の未来」があります。公共施設について漫画で説明しています。ポイントをより多くの市民に伝える必要があり、分かりやすく漫画で伝えるのはいかがでしょうか。

(総合政策課課長補佐) おっしゃるとおり、県内でも日光市が漫画を使って計画の紹介しております。下野市も参考にさせていただきたいと思っております。

(総合政策部長) 公共施設マネジメントが計画どおりにいかないことで財政危機に陥る可能性もありますので、市民に計画内容を伝えていながら実行していくことが、将来的にも重要だと認識しております。

(伊澤委員) 今後の学校の利活用について、市では市民にどのように説明していく予定でしょうか。

(総合政策部長) 国分寺西小学校については、公共施設マネジメント推進委員会があり検討しているところでもあります。検討方法についてはフローを作成し、第一は公共施設としての利用、第二は地域での活用、第三は民間企業での利用、第四に文部科学省での廃校プロジェクトにより企業等での利活用の応募を募る流れとなります。それでも利用方法が定まらない場合には除却となる予定です。現段階では公共利用での利活用を検討しております。

(伊澤委員) 耐震工事等も行っており、もったいないので何かに活用できればいいと思います。

(稲田委員) 現段階では庁内での検討であり、市民の方にはまだ説明する段階ではないということですね。

(総合政策部長) 地域の方々の要望等については、先程のフローに沿って検討しつつ、情

報を吸い上げられればと思っております。

(杉原会長) 老朽化してくる施設も増えてくると思いますので、費用対効果も考慮しながら合理的に取り組んでほしいと思います。

(伊澤委員) 文化会館等をつくってほしいという要望は多いのでしょうか。

(総合政策部長) 数年前に文化協会から要望書が提出されました。また議会での一般質問では毎年話題となっております。

(伊澤委員) 市としてはどのようにお考えでしょうか。

(総合政策部長) 都市計画における市街化区域で用地を探しているのですが、なかなか見つからない状況であります。市長の答弁にもありますとおり、自治医大駅周辺は市街化調整区域であります。合併当時から都市核として位置づけており、都市機能を集約させていきたいと思っております。そういった思惑はありますが、市街化調整区域であり、なかなか集約できていないところありますので、可能であれば市街化区域に編入しながら文化施設等の用地も確保していければと答弁しております。

(伊澤委員) 維持管理によって市に多大な負担がかかってしまうと思います。例えば自治医科大学と連携して取り組むなどしていただけたら建設に賛成できますが、市単独で取り組む場合には若い世代に大きな負担をかけてしまうと考えております。

(総合政策部長) 市長の答弁になりますが、国際的な規模の文化会館ですと60億円から90億円の財政負担となり、ランニングコストも毎年1億円程度になると言われており、身の丈に合った文化会館を検討していけたらと思っております。

(杉原会長) お時間となりました。以上をもちまして、ヒアリングを終わります。

(3) 全体協議

(杉原会長) 今回のヒアリングについて何かございますか。特にご意見が無いようであれば、全体協議を終わります。

(4) その他

(杉原会長) その他について、各委員から何かありますか。無いようですので、事務局から何か予定されていたらお願いいたします。

(事務局) 本日の会議録については、調整次第、配付させていただきます。次回委員会は、12月13日開催を予定しております。委員の皆様の市民評価結果をとりまとめ、その資料と併せまして、後日、改めてご案内させていただきます。次回委員会では、とりまとめた各委員の市民評価結果を基に協議していただき、事業ごとに委員会としての市民評価を決定していただきます。その協議内容を事務局でとりまとめ、行政評価市民評価報告書案を作成し、その後、委員の皆様に確認していただきます。なお、1月31日開催予定の今年度最後の委員会では、報告書の最終確定をしていただき、市長への報告書提出と意見交換を予定しております。以上です。

(杉原会長) 本日予定されていましたが議事はすべて終了いたしましたので、事務局に進行をお返しします。

○閉会

(事務局) 以上をもちまして、平成30年度第3回下野市行政改革推進委員会を閉会いたします。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する。

会長

署名委員

署名委員